



発行所
西原町役場
〒903-01
西原町字嘉手苅112番地
電話 (09894)-5-4533
印刷
栄光堂印刷

町の世帯・人口
(昭和58年6月末現在)

世帯数	4,820世帯
人口	18,547人
男	9,353人
女	9,194人
6月の人口移動	
出生	30人
死亡	1人
転入	105人
転出	75人
婚姻	7件
離婚	6件

銀バス 西原線が山川経由と末吉経由に 儀保から安里までの間が変更

那覇交通株式会社銀バスでは、ため西原線の路線再編を検討し、十八日付で認可され、七月十六日から路線が儀保から安里までの間、



▶山川経由西原線



▶末吉経由西原線

線再編を申請していたが、六月二日付で認可され、七月十六日から路線が儀保から安里までの間、

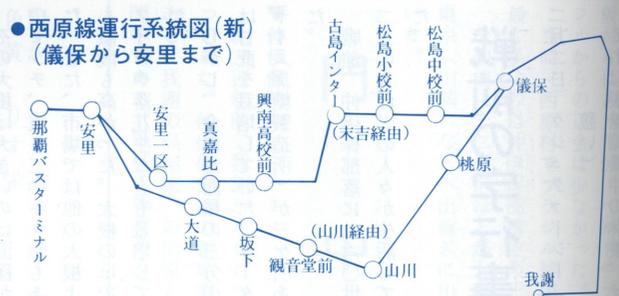
山川経由西原線(従来通りの路線、平日三十回)と末吉経由西原線(古島インターから環状二号線を通って安里へ、平日三十三回)の二つのコースで運行されることになりました。平日は、約十五分間隔で末吉経由と山川経由が交互に運行されています。会社側は、この路線変更により踏み切った理由として①末吉経由の方

が十五分〜二十分間速く那覇に着いて便利である②高校の校区が変わり、西原から首里高校に通学できなくなった③流大移転により大学生の数が減った④経営合理化のため牧志経由末吉線を廃止し末吉経由西原線に統合させるなどを上げています。

ちなみに運行回数は、従来と同じであります。

両線ともバスの入口のところに末吉経由は赤で「末吉」と、山川経由は青で「山川」と書いてあります。銀バス西原線をご利用なされる場合は、乗る前に一度確かめからお乗り下さい。

尚、西原線の儀保〜安里間の運行系統図は次の通りです。我謝〜儀保、安里〜那覇バスターミナルは従来通り。



自転車の安全な乗り方を指導

夏休みを前にして子どもたちに自転車の安全で正しい乗り方を徹底させようと、西原小学校(松田正精校長、当間嗣貞PTA会長、児童一千六十名)では、七月十九日午前九時から全校児童を校庭に集め炎天下で自転車の安全な乗り方指導を行った。これは、同校の児童が一年から六年までに約三百台の自転車を所有しており、普及率三〇%になっていることから交通安全

ルールと自転車の安全な乗り方を身につけることにより校区内での交通事故を未然に防ごうと学校とPTAが合同で実施した。指導には、与那原署の警官、与那原地区自転車組合の指導員、町内自転車店経営者などが当り、模擬自転車コースに信号機を取り付けられ、高学年の児童に交差点を曲がる時の合図のしかた、信号機の待ち方、発進のしかたなどの交通ルールの基本を指導した。最後に児童代表によって安全運転の宣誓が行われこの日の安全指導を終えた。



▲夏休みを迎え、涼風を求めて西中プールへ……水泳で体をきたえ、つよい子になるぞ! (プールを開放)

夏本番!!



夏休みを前にして子どもたちに自転車の安全で正しい乗り方を徹底させようと、西原小学校(松田正精校長、当間嗣貞PTA会長、児童一千六十名)では、七月十九日午前九時から全校児童を校庭に集め炎天下で自転車の安全な乗り方指導を行った。これは、同校の児童が一年から六年までに約三百台の自転車を所有しており、普及率三〇%になっていることから交通安全

七月十四日午後二時、町社会福祉センターで昭和五十八年度町社会福祉協議会評議員会が開かれ、昭和五十七年度町社会福祉協議会事業実績報告並びに一般会計決算の承認、五十七年町社会福祉センター特別会計決算の承認などが行われた。また、七月一日付で新評議員に平安恒政、小川良夫、翁長正昌、呉屋厚雄、花城朝勇、呉屋良一、山畑清光、砂川徳次、島袋宗盛、伊波善英、小橋川正世、城間信三、大城栄一、安座間喜盛、呉屋幸夫、上里恵光、呉屋賀真、長嶺由光、金城澄、城間千代子、宮平春子、浦崎ミヨ、比嘉千代、宮平清子の各氏が委嘱された。

寄付お礼

七月四日、浦添市字牧港二八九番地の比嘉貞雄さんから「私の八十五歳の生年祝に孫たちから贈られたお金を社会福祉のために役立てて下さい。」と町社協に七万円の寄付がありました。この紙面をかりて比嘉さんのご厚意に感謝申し上げます。

町社協評議会終わる

七月十四日午後二時、町社会福祉センターで昭和五十八年度町社会福祉協議会評議員会が開かれ、昭和五十七年度町社会福祉協議会事業実績報告並びに一般会計決算の承認、五十七年町社会福祉センター特別会計決算の承認などが行われた。また、七月一日付で新評議員に平安恒政、小川良夫、翁長正昌、呉屋厚雄、花城朝勇、呉屋良一、山畑清光、砂川徳次、島袋宗盛、伊波善英、小橋川正世、城間信三、大城栄一、安座間喜盛、呉屋幸夫、上里恵光、呉屋賀真、長嶺由光、金城澄、城間千代子、宮平春子、浦崎ミヨ、比嘉千代、宮平清子の各氏が委嘱された。

昭和五十八年度 町青少年協総会終わる

青少年の心身共に健やかな成長を図ろうと七月一日午後三時から町役場会議室で昭和五十八年度町青少年健全育成協議会総会(写真)が開催者多数が出席して行われた。総会では、昭和五十七年度事業報告並びに決算報告の承認、同監査報告、昭和五十八年度事業計画並びに予算、会則の一部改正が審議され原案通り承認された。会則は、会の構成メンバーに「スポーツ少年団」が新たに加えられる。副会長二名を三名に改めた。新年度事業では、七月〜八月に啓蒙宣伝活動、昼間巡回指導、夜間補導、十一月に住民大会、十二

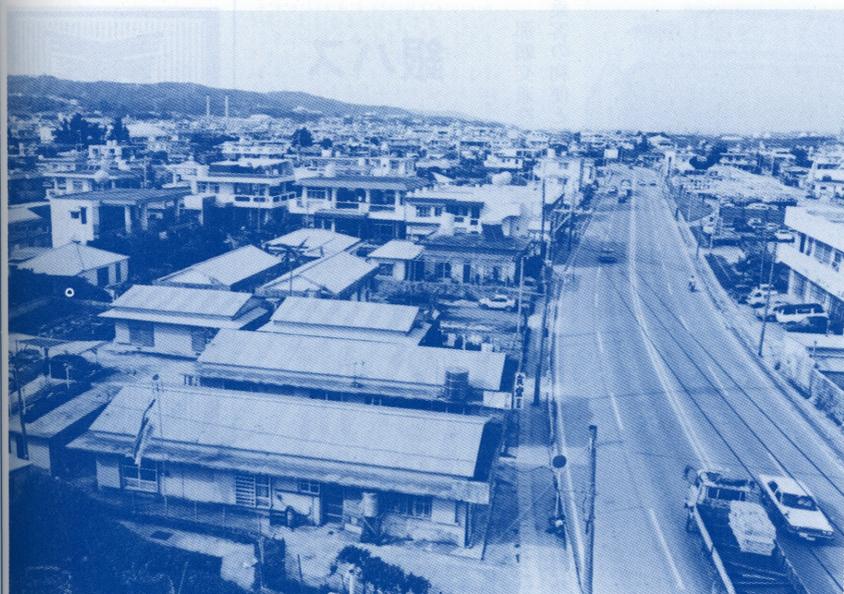
月、来年三月に夜間補導を計画し、青少年の非行を未然に防止するとともに環境浄化のため地域住民の意識高揚を図っていくことになった。

夏休み期間中の児童生徒の水難事故対策には万全を期しましょう。

はじめに

十二区は、我謝旧試験場を主体に兼久の一部からなり、一六〇世帯、六四五人を有し、人口密度は、六、二三二人と過密である。十二区の大が旧県立農業試験場であったが、戦後の跡地に旧仲伊保、伊保の浜、崎原の出身者が、昭和二十二年頃次々と住宅を構えてきた集落である。九区の新部落地域と同様戦後間もなくできた新興部落である。地番はほとんど我謝二四一番地であるが、我謝本部と区別するため「試験場地」とも呼ばれている。

十二区は、仲伊保の出身者が多く同区内に戦後間もなく仲伊保公民館をつくり地域活動を行う上で中心的役割を果たしたところでもあった。同郷意識は非常に根強く町内の陸上競技大会で仲伊保の黄金時代があった程であった。



▲12区の全景、国道329号線をはさむように立地している(東洋建設社ビル屋上から)。

国道三二九号線沿は、旧我謝馬場跡であり、そのクワァデーサー並木は県下の名勝の一つに数えられていた。国道の東側に西原自動車サービス(中古車販売)があり、西側にクリーニング店、テレビ店、自動車整備工場、飲食店、衣料品店、金物店、自転車店、印刷所、建設会社事務所などが立ち並びにぎやかである。

今、同区には、公共施設はないが、今年度児童館の建設が予定されており、それが完成すれば児童の遊び場として活用されるほか、ひいては地域づくりの手助けとなるものと大きく期待されている。

位置

十二区は、本町の南部に位置する地域で東西に五〇〇メートル、南北に四〇〇メートルの区域で行政区の中で三番目に小さい所である。北側から東側にかけては十一区、

十区にそれぞれ接し、西側および南側は十三区に接し我謝の一部を主体に兼久の一部により形成されている。

この地域は国道三二九号線をはさむように立地しその沿道には各

おらがまち(十二)

十二区—試験場地

種の事業所等が立ち並んでいる。そして、その西側には住宅等が密集し、今年度において児童館の建設が予定されており、東側には平坦な農地が広がり住宅等が散在している。

仲伊保

戦前まで仲伊保は崎原部落の東側、中城湾に面した海岸地に集落が立地していた。今大戦においてそこは激戦地のためにほとんどの家屋が焼失した。

戦後、米軍が新しく西原飛行場を建設するためにここから大量の土砂を採取した。そのため、旧部落跡地は池沼と化していた。また、耕地も飛行場用地として接収されたため町内各地に分散したが、大半の住民は現在地に移住し戦後三十八年の年月と共に定住の基礎ができた。

本土復帰(昭和四七年)前後を境にして、多くの企業がここに集まり、西原町の工業地帯の観を呈している。現在、工業専用地域に指定されている。

戦前、仲伊保部落は県内でも屈指の大根の名産地であった。首里や那覇の市場では『ナケーフデークニ(仲伊保大根)』と呼ばれ、消費者から好評であった。その大根一本で二〜三〇キロもあった。仲伊保部落の由来については、今からおよそ三〇〇年前に我謝か

ら大城家の先祖がここに住みついたのが始まりである。その頃にはハルヤー(畑家)で仲伊保原一帯に点在していた。

その後、長島御殿(総地頭家)がこの地に別荘を建て、しだいに

人々が集まり住むようになった。現在でも長島ガールと長島の御願所が残っている。仲伊保部落のウブガー(産井泉)は長島ガールであった。

一五〇年ほど前に中城間切から安里家・泉川家に移ってきた。また、そのころ小那覇からも嘉手苅家・玉那覇家・新川家等の次男・三男らが分家してきた。最後に移ってきたのは山原石原(屋号)家である。

この仲伊保部落の創始家は大城家である。屋号もナケーフ(仲伊保)と部落名を名乗っている。昭和四年、仲伊保部落は小那覇より一行政区として分離独立した。

仲伊保のイーフ(伊保)は海岸地付近の砂洲つまり沖積層のことである。



工業地域になった仲伊保

戦前の字の産業構造

ほとんどの世帯が農業に従事していた。一部、漁業を営んでいる世帯もあったが、半農半漁であった。泉川家と大城家が伊保の浜の海(現南西石油敷地)で位置網漁業を営んでいた。

また、仲伊保部落と海の関係は深く、有名なナケーフデークニ(仲伊保大根)は伊保の浜から取ったガチチャー(ウニ)を肥料として作られた。浜にはガチチャーニス(溝)と呼ばれ、大量のウニが生息している所があった。何時でもそこからたくさんウニが取れたので、住民は毎日これを採取し、中身は食料(なかみを鍋に入れ、スープにして食べた)として、殻を肥料にした。残念なことに県下でも有数なウニの生息地が南西石油の埋立工事により消えてしまった。

仲伊保部落は海岸近くに立地し、耕地は砂地で大根の栽培に適していた。しかし、字民がガチチャー(ウニ)の殻までも肥料に使うという努力のおかげで、あの有名なナケーフデークニが作られた。

その大根は大きいのは直径が三〇センチ、重さ三〇キロ余もあった。また、市場では他の大根よりも値段が高かった。大根のほか、スイカや落花生なども栽培していた。

しかし、全耕地面積の三分の二は甘蔗を栽培していた。サターヤー(黒糖製造所)が三ヶ所あった。戦前、仲伊保部落には六〇世帯二五〇人ほどの人々が生活していた。

戦前の字行事
二月二日 クシユクアーシー(腰懸い)
これは製糖期最中の休養、ナカ

ユクイの意味で、全島各地で行われている。その日は各サター組毎に集まり慰労の宴を催した。ここで仲伊保のサター組について記してみる。三組のサター組があり、それぞれ親族によって組織されていた。シーヌ上組、仲伊保組、安里組の三組である。

三月三日 浜降り
この日は「お重」をつくり、家族が海辺に出て遊んだ。インスジには尚家の人々が拝みに来た。五月四日 ハーリー
この日は、別名「ユツカヌヒー」と云われ年に一回オモチャ市が目立つ日であった。平常の日はオモチャを売っている商人はなかったが、この日だけは、伊保の浜の港(ハーリーが行われる所)で首里・那覇の商人が色々なオモチャを並べて玩具市が開かれ子連れのおかあさん達で賑わった。

この日は、仲伊保、伊保の浜では、ハーリー(爬虫船競走)が、仲伊保、伊保の浜の二組にわかれて伊保の浜の港内で行われた。大正時代まで爬虫船は、天馬船が利用され、一そうに二十名のこぎ手、鐘打ち一名、旗振り三名、舵取り一名計二十五名が乗って波を飛ばしての雄壮な競走であった。中にはけがをするものも出る程であった。

昭和になってから仲伊保、伊保の浜、中城村字南浜の三ヶ字で競うようになった。一そうのサバニ(割り舟)に十二名の漕ぎ手が乗り、三そうのサバニは仲伊保の海岸より内間高干瀬に向けて競争した。また、家庭では、一般に甘菓

子をつくり神仏に供えた。六月二五日 綱引
仲伊保部落では綱引は行われなかった。その日は小那覇の綱引に参加した。仲伊保は雌綱組、伊保の浜は雄綱組とそれぞれ加勢する側が定められていた。

七月一日 エイサー
この日は盆祭りの最後の日、つまり「ウークイ」にあたる。夜になると字の青年達が公民館に集まり、集団で太鼓や銅鑼を打ち鳴らしながら各戸を廻った。

▼人口六四五五人▼世帯数一一六〇▼面積一一・〇三五平方キロメートル▼人口密度二六、二三人▼さとうきび生産一一、二六七トン▼事務担当者 崎原裕石▼婦人会長 官平春子▼十二区スポーツ少年団指導者 上地美枝子

御衣脱瀬

かつて仲伊保部落は中城湾に面していた。海岸から東方約五〇〇メートル沖の洋上にインサージという御願所があった。その一帯のサンゴ礁を内間高干瀬という。『球陽』によると、尚徳九年(一四六九)、首里城でクーデターが起り、尚徳王の一族が臣下らに殺害された。その臣下らが西原間切内間村(現在の内間御殿)に隠居していた金丸(後の尚徳王)を王位につけようと迎えた。

「既にして群臣鳳章電衣をささげ内間にすすみ至りて迎接す。金丸大いに驚きて曰く、臣を以て君を奪ふは忠なるか。下を以て上に叛くは義なるか。なんじら、宜しく首里に帰りて貴族賢徳の人をえらびて君と為すべしと。言おわり、涙流ること雨の如し。固く辞して起たず。又避けて海岸に隠る。郡臣追従し、言を極め力めて請ふ。金丸、やむを得ず、天を仰ぎて大(次面につづく)

いに嘆じ、ついに野服を脱ぎて童衣を着し、首里に至りて大位をふむ。そして中山、万世王統の基を開く。後、其の岸を名づけて脱衣岩(俗に其の岩を呼びて脱御衣瀬と曰ふ)と曰ふ。」

このように「インサージー」の由来について詳しく述べてある。つまりインストとは衣のことで、その干瀬で金丸が野服から童衣に着替えたので「インスハジジー」がなまって「インサージー」と呼ぶようになった。

しかし、地元(仲伊保)での伝説によると、金丸が仲伊保の海岸

まで逃げて来たのは「球陽」と同じであるが、金丸が海岸まで逃げて来て海に飛び込み、そこが浮上してできたのがインサージーだといふ。

戦前まで旧三月三日(浜降り)になると首里から尚家一族がインサージーに来て拝んでいた。このインサージーは現在南西石油敷地のすぐ隣にある。パースのつけね附近のサンゴ礁の一角にある。かつてはそこには御香炉と碑があったといわれているが、いまではそれはない。干潮の時には歩いて渡ることが出来る。

移民

仲伊保部落での移民の先駆者は明治末期ごろハワイへ呼び寄せで行った安里三良氏と新川郁夫の父の二人である。

その後、ハワイへは新東小、後門小など五世帯が移民した。米国の移民制限法が施かれてからはペルーやブラジル、アルゼンチン、南洋等への移民が多くなった。

大正六年ごろ、当山樽金、当山松、奥浜ら四世帯がペルーへ移民した。また、昭和初期には大城兄

弟、大城亀、嘉手苧浦ら五世帯がブラジルへ渡った。同じころ、新川、安里昌徳、伊佐、諸見里安榮、謝名堂ら五世帯が南洋へ渡った。アルゼンチンへ移民したのは大城盛善、大城盛喜、大城善吉らであった。

ブラジルやペルーへの移民者には次男、三男らの分家が多かった。親や兄弟から「呼び寄せ」移民は昭和初期から本格的に始まった。仲伊保部落の戦前(昭和十年)の海外在留者数は二〇世帯(字の三分の二で、七〇八〇名ぐらいであった。家族への送金は南洋や大

阪からはあったが、ペルーやブラジルからの送金は少なかった。当時、西原村でブラジル移民が最も多いのは仲伊保部落であった。その他に十二世帯ほどが大坂や東京(川崎)などへ出稼ぎに出ていた。

門中

▼安里家
中城村より百年ほど前にここへ移ってきた。

▼嘉手苧家、玉那覇家、新川家
この三家とも小那覇から分家した次男、三男である。元家は小那覇にある。

▼新垣家、当山家、城間家
宜野湾村よりここへ移ってきた。

▼石原家
中城村字南上原からここへ移ってきた。屋号は山原石原という。

▼徳平家、屋宜家
ともに久米島からここへ移ってきた。

栄養から見た食生活

鉄

血液をつくる大切な成分

ミネラル(無機質)には、カルシウム、リン、鉄などがあります。このうち、鉄は血液をつくる大切な成分として、なくてはならないものです。

鉄は血液の中で酸素を運ぶ役目をするヘモグロビンの重要な成分です。ですから、この鉄の摂取がスムーズに行われないと、血液をつくるのに支障をきたし、貧血の原因になります。

貧血症状は、一般的に男性に比べて女性に多く見られます。厚生省の調査によりますと、成人女性(25歳~49歳)の5人に1人が貧血気味です。そして、約10人に1人(8~13%)は、明らかに貧血であると報告されています。なかでも深刻なのは、妊婦および授乳婦で、妊娠前期では18%、妊娠後期では39%、授乳期でも23%が貧血という結果がでています。



女性の貧血は、本人だけでなく、妊娠・出産・授乳の過程で、胎児や乳児の成長にも大きな影響を及ぼすわけですから注意が必要です。

貧血の原因はいろいろ考えられますが、アンバランスな食事による栄養不足、とりわけ鉄の摂取不足による場合が多いようです。

鉄を多く含む食品としては、まず緑黄色野菜(ホウレンソウ、コマツナ)、魚肉、卵黄があげられます。

鉄の摂取量は、ふつう成人で1日当たり、男子が10mg、女子が12mgといわれています。鉄の不足で貧血にならないために、常に栄養のバランスに注意しましょう。

町議会だより

六月二十八日より二十九日にかけて二日間の会期で昭和五十八年第二回西原町議会定例会が開催された。

提出された案件は、議案二件、報告二件、承認二件、陳情一件であり、全ての案件は原案どおり可決され、陳情についても採択された。又四名の議員による一般質問も行われた。

※議案

昭和五十八年度西原町一般会計補正予算について(原案可決)
歳入歳出にそれぞれ三、二二八万五千円を増額し、同補正予算の総額を三五億七、三〇八万円とした。

昭和五十七年度西原町繰越明許費繰越計算書について(報告)
昭和五十七年度西原町事故繰越費繰越計算書について(報告)
※承認
専決処分承認を求めることについて(承認)

昭和五十八年度西原町老人保健特別会計補正予算について(原案可決)
歳入歳出にそれぞれ五〇六万五千円を増額し、同補正予算の総額を三億六四二万七千円とした。

工事請負契約締結について(原案可決)
工事名、池田地区農地保全整備
事業排水路及び農道工事。
契約金額 一億五〇〇万円。
※報告
昭和五十七年度西原町繰越明許費繰越計算書について(報告)
昭和五十七年度西原町事故繰越費繰越計算書について(報告)
※承認
専決処分承認を求めることについて(承認)

町婦人主張大会

町婦人会(大城静子会長)と町教育委員会の共催による婦人主張大会が、七月三日午後二時から中央公民館で関係者約五百十人が出席して行われ、五人の発表者が熱弁をふるった。発表時間は、一人十分以内で日頃婦人のかかえる問題並びに体験を訴えた。

審査の結果、安くておいしい公害のない自然食品(手作りもの)の料理で健康で明るい家庭を築い

男子は泉、女子は新川が初優勝

町体協主催による第三回夏季テニス大会が七月十七日、南西石油テニスコートで行われ、総勢三十名の選手により熱戦が展開された。各種目の勝者は次の通り。

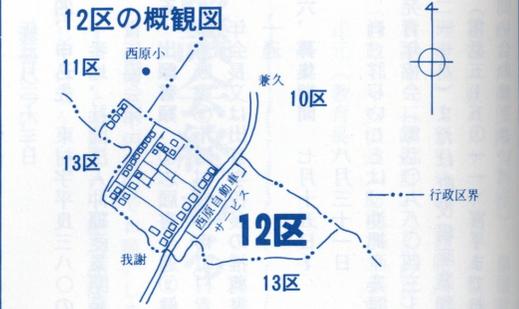
▼一般男子シングルス
優勝 泉 明光(7区)
準優勝 久高将清(5区)



スポーツ少年団野球大会
嘉手苧フ、坂田ハイッブが優勝

野球を通して青少年の健全育成を図ろうと町スポーツ少年団(福福勇本部長)主催の第二十三回スポーツ少年団野球大会が六月二十五日と二十六日、西原中学校グラウンドでAブロック九チーム、Bブロック十チームが参加して行われた。

珍プレー、好プレーが続出し、熱戦が展開されたが、対戦の結果、Aブロックは、嘉手苧フ、坂田ハイッブが坂田ハイッブBが西原パワアローを六―四で下しそれぞれ優勝した。



燃えるゴミは黒い袋に、燃えないゴミは青い袋に入れて出しましょう。

西原東ク男子が初優勝

全日本バレー 女子は準優勝 小学生県大会

第三回ライオンカップ全日本バレーボール(六人制)大会県大会(主催・読売新聞、OTVなど)が七月三日午前九時から沖縄市営体育館で開かれ、西原東クラブ男子(監督 宮里憲幸先生、西原東小児童)が決勝戦で宮城クラブを二〇のストレートで下し初優勝に輝いた。

西原東は、エース・アタッカー大城を中心に与那嶺勉哉、小川の攻撃陣と強力なサーブの活躍により順当に勝ち進んだ。準決勝では西原クラブ(西原小児童)と対戦し町内同志で接戦が展開され、二一で勝ったが、実質上の決勝戦にふさわしい試合であった。

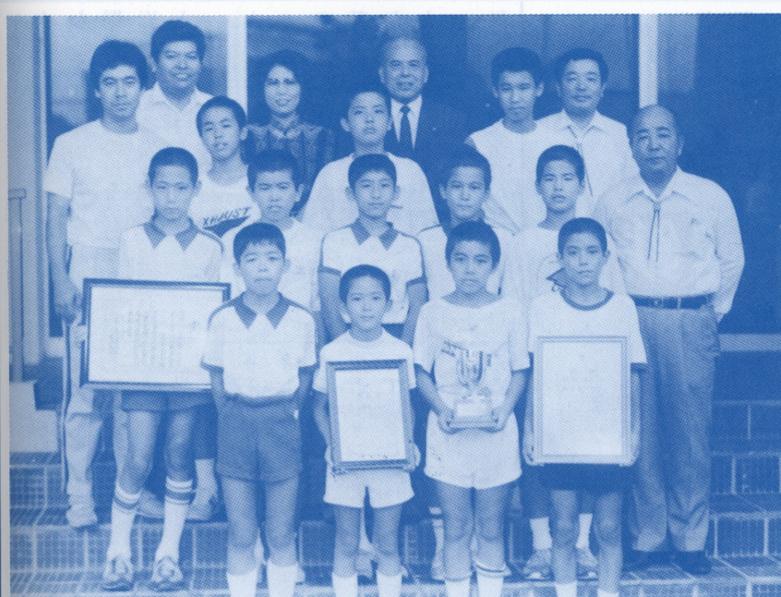
また西原東クラブ女子も決勝戦まで勝ち進んだが、与那原クラブ

に二〇で敗れ惜しくもアベック優勝はあと一歩であった。

西原東クラブ男子は、八月十五日から十八日までの四日間、東京で行われる全国大会に沖縄県代表として出場することになり、その活躍が期待されており、初のベスト四入りを目ざして練習と体の摂生に余念がない。

尚、対戦結果は次の通り。

【男子】
△準決勝
西原東 2 (15 11) 15
西原 1 (14 16) 1
△決勝
西原東 2 (15 17) 0
宮城 1 (15 5) 0



▲小学生バレーボール大会で初優勝した西原東クラブ男子チーム(町役場庁舎前で記念撮影)。

町バスケットボール大会

男子10区、女子11区が優勝

町体協(平安恒政会長)主催の町(区対抗)バスケットボール大会が七月三日午前十時から西原中体育館(主会場)と西原東小体育館で行われ、男子八チーム、女子七チームが参加して賑わった。

一回戦から熱戦が展開されたが、対戦の結果、男子は十区が六区を62-46で下し、女子は

△準決勝
西原東 2 (15 11) 15
系満南 1 (15 3) 0
△決勝
与那原 2 (15 11) 15
西原東 1 (15 5) 0

町体協(平安恒政会長)主催の町(区対抗)バスケットボール大会が七月三日午前十時から西原中体育館(主会場)と西原東小体育館で行われ、男子八チーム、女子七チームが参加して賑わった。

一回戦から熱戦が展開されたが、対戦の結果、男子は十区が六区を31-20で下しそれぞれ優勝に輝いた。男子決勝戦では、十区はポイントゲッター崎原(二十七得点)を軸に伊集など活躍で六区のエース泉川の追撃をかわし勝った。女子決勝戦では、十一区のエース石原の活躍が目立



た見事な演奏を披露し、聴衆を魅了させた。九州でも西原中のレベルはトップクラスであり、昨年の九州大会で銀賞を受賞しているだけに九州に行けないのは惜しい。

【男子】
準決勝
10区 41-32 8区
6区 72-40 16区
決勝
10区 62 (28 14) 46 6区
11区 34-26 2区
8区 40-36 13区
11区 31 (14 16) 20 8区
17 (4) 14

【女子】
準決勝
11区 34-26 2区
8区 40-36 13区
11区 31 (14 16) 20 8区
17 (4) 14

町バレーボール大会

男子六区、女子十五区が優勝

町体協(平安恒政会長)主催の町(区対抗)バレーボール大会が七月十七日午前十時から西原中体育館(主会場)と西原東小体育館で行われ、男子八チーム、女子七チームが参加して賑わった。

会場いっぱいにはハッパツとしたプレーが続いたが、熱戦の末、男子は六区が五区を二一で下し、女子は十五区が六区を二一〇で下しそれぞれ優勝した。

尚、決勝戦の結果は次の通り

【男子】 決勝
六区 2 (21 7) 1 五区
21 14

【女子】 決勝
十五区 2 (21 19) 0 六区
21 17

区対抗卓球大会

十区が優勝

町体協(平安恒政会長)主催の各区対抗卓球大会が七月三日午前九時から西原中体育館で五チームが参加してリーグ戦を行い、十区が去年の覇者七区を三二で下し優勝の栄冠に輝いた。

尚、決勝戦の結果は次の通り

十区 3-1 七区
我謝宗厚 1-2 与儀隆
我謝知子 不戦勝
我謝・崎原 2-1 与儀・呉屋
花城裕次 0-2 呉屋和彦
崎原盛一 2-0 宮城 靖

【西原中学校】 県中学校のスポーツ
柔道二名、庭球二名が派遣

【女子】
準決勝
11区 34-26 2区
8区 40-36 13区
11区 31 (14 16) 20 8区
17 (4) 14

西中、二年連続

金賞に輝く

九州吹奏楽コンクール県予選 見事な演奏を披露

第二十八回九州吹奏楽コンクール沖縄県予選(沖縄県吹奏楽連盟主催)が七月十七日に那覇市民会館で開かれ、本町の西原中学校吹奏楽部(指導 照屋繁子教諭)が、昨年に続き二年連続金賞に輝いた。

ヴェルディ作曲の歌劇「シシリア島の夕べの祈り」序曲を演奏。西原中は、九州大会への県代表にはなれなかったが、迫力に満ち

香典返し

このほど、次の方々から香典返しがありました。

◎屋宜宣太郎さん(字与那城八三番地)から故祖母・ウサさんの香典返しとして町社協へ十万円。

◎宮平善市さん(字我謝六七三番地)から故祖母・ウサさんの香典返しとして町社協へ十万円。

この紙面をかりて二名の方々の厚意に感謝申し上げます。

七月二十二日から三二〇キロを超えるダイヤル通話が昼間三分間四百円に

電電公社は、五十七年度、収入と支出の差額三、七〇〇億円を計上できる見込です。

このような財務状況を基盤として、五五年、五六年に続き三回目の値下げを行うとともにサービス充実のためのさまざまな施策を実施しております。

電電公社は、これからもご利用

青年隊員募集要項

一、募集人員 六十名
二、応募資格
(1)義務教育を修了した満二十五年未満の独身男子
(2)心身健全で共同生活を守りうる者
三、訓練期間
昭和五十八年十月四日～五十九年三月二十二日
四、申込先 東村字平良三八〇の一番地、社団法人沖縄産業開発青年協会宛
五、出願書類 ①志願書一通②健康診断書③市町村長か市町村青年会長又は出身学校長の推薦書一通
六、募集期間 七月十五日～八月三十一日
尚、詳しいことは、沖縄産業開発青年協会(電話〇九八〇四三二一)または町役場産業課(電話五一一〇一一)官平までお問い合わせ下さい。

3分間のダイヤル通話料(320Kmを超える通話)

時間帯	前		後	
	0時	6時	7時	9時
曜日		8時	12時	
月曜～土曜	220円	240円	400円	240円
日曜・祝日	220円		240円	